

オリエンテーション 脱炭素かまくら市民会議

稲田素子

(実行委員会委員・IDEP理事)

1. 脱炭素かまくら市民会議について

- ◆ 2024年度神奈川県「高校生・地域向け脱炭素普及啓発業務」の一環として実施。市民の自分事化や行動変容の促進をめざし実施する。脱炭素社会づくりを地域で加速。
- ◆ 県施策は、2つのプロジェクトで構成
 - ① 高校生向け脱炭素教育
 - ② 脱炭素の推進に向けた地域版ワークショップ
 - i 脱炭素ちがさき市民会議 7～11月
 - ii 脱炭素かまくら市民会議 10～1月
 - iii 田園都市沿線地域共創ネットワーク 8月～2月

2. 脱炭素かまくら市民会議の背景

- ◆鎌倉市は2022年5月に第3次環境基本計画及び地球温暖化対策地域実行計画（区域施策編）を改訂。現在、環境審議会において、さらに重点をおいて取り組むべき分野やその推進方策等について審議を深めている。（「地球温暖化対策地域実行計画（地域脱炭素促進事業編）」）。2024年10月には、審議会答申が出される予定である。
- ◆その結果を受けて市民レベルでの取組みの展開を図るに当たり、一般市民の声・反応を知り、市民参加型で取組の展開を目指したいとの市の意向あり。
- ◆一般の市民による参加型の議論の場（市民会議）を設け、市民の脱炭素化への行動変容や地域社会における脱炭素の取組の推進等について、市民の間で掘り下げた討論を行い、その結果を市民による意見としてとりまとめ、市民社会・地域社会に発信する。これが市の脱炭素施策に生かされたり、市民の行動変容、地域社会での取組の推進へのきっかけとなることが期待されている。
- ◆2023年度の神奈川県「脱炭素の推進に向けた地域ワークショップ事業」では、気候市民会議形式を参考に市民会議を実施。2024年度は、地域の実情をふまえたより多様な形のワークショップを考えていくことが求められている。

3. 主催者・協力・事務局

- 主催：脱炭素かまくら市民会議実行委員会
(市民会議に関わる重要事項を協議決定し、会議を円滑に進行していく事を目的として設置。地元自治体、専門家、研究機関、地域の市民組織・市民等で構成)
- 協力：鎌倉市
- 事務局：一般社団法人 環境政策対話研究所

4. 脱炭素かまくら市民会議の目的

無作為抽出で選ばれた鎌倉市の市民が、
「地球温暖化対策地域実行計画(地域脱炭素促進事業編)」の優先事業
を受け、またこれまでの取組の成果を振り返りつつ、

- (1) 脱炭素社会の実現を目指した 市民の行動 = 市民の脱炭素アクション
- (2) 地域社会および鎌倉市等での課題解決 についてじっくり話し合い、
- (3) その結果を「市民意見」としてとりまとめ、鎌倉市に届け、地域社会に向けて発信する。政策づくりや、脱炭素の取組に活用していく。

5. 市民のさまざまな立場からの取組

事業者

仕事を通じて、環境に配慮した商品・サービスを開発・提供する

生活者

脱炭素社会に向けて日常生活の中で行動し、取り組む

主権者

脱炭素のための市民や地域の活動を支える施策への提案を行う

投資家・支援者

脱炭素社会に向けた取組に投資・支援する

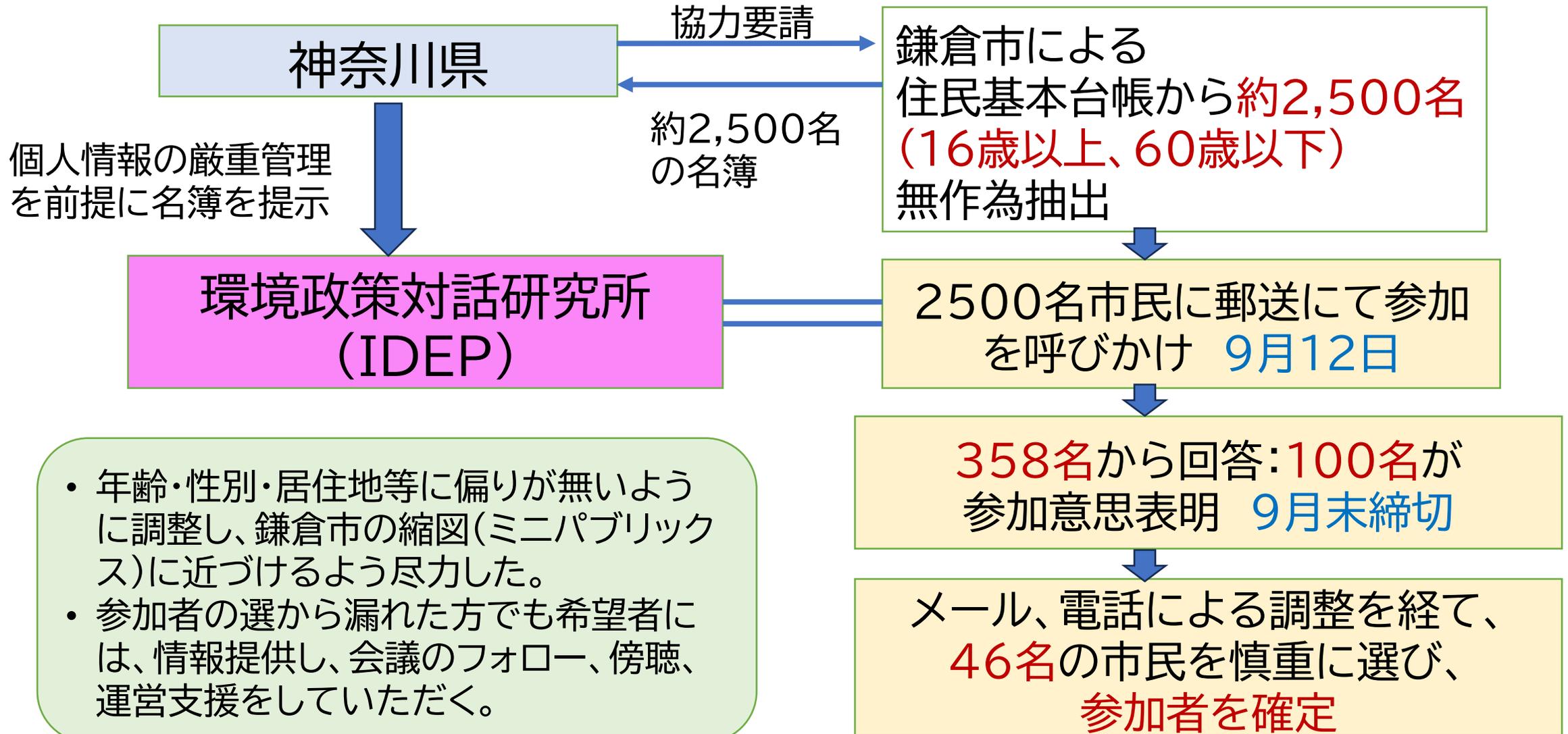
消費者

環境に負荷の少ない消費・サービスを選択・購入する

6. 脱炭素かまくら市民会議の成果物

- (1) 脱炭素かまくら市民会議での市民意見のとりまとめ
- (2) 市民意見の鎌倉市への提出、地域社会への公表
- (3) 脱炭素かまくら市民会議の結果を、市民・地域社会
・鎌倉市で展開させる

7. 参加市民(46名)はどのように選ばれたのか



8. 参加市民(46名)の構成

◆年齢・性別

年齢構成	男性	女性	その他	計	人口構成からみた人数
50歳～	7	7	0	14	13.3
40歳～	6	6	0	12	10.5
30歳～	4	4	0	8	6.6
20歳～	4	3	1	8	6.2
16歳～	2	2	0	4	3.4
計	23	22	1	46	40名
人口構成	49.0	51.0			

◆地域別

ブロック	地域別人数	人口構成からみた人数
鎌倉	13	10.6
腰越	7	5.5
深沢	7	7.8
大船	11	10.4
玉縄	8	5.6
鎌倉市	46	40名

- ・年齢は、40歳以上、50歳以上が多く若年層が少なめ、男性と女性はほぼ半分ずつ、地域は鎌倉と大船が多く、玉縄がそれに次ぐという結果になった。

9. 脱炭素かまくら市民会議の体制(1)

1. 実行委員会委員

市民会議を主催し、市民会議に関わる重要事項について協議・決定を行う

氏川 恵次	横浜国立大学大学院国際社会科学研究院 国際社会科学部門教授 (委員長)
川口 和英	東京都市大学大学院環境情報学研究科都市生活学専攻教授 (副委員長)
石野耕也	中央大学名誉教授
稲田素子	一般社団法人 環境政策対話研究所 理事
千田純子	鎌倉市環境部環境政策課 次長兼担当課長
平野理恵	ゴミフェス532代表
藤島節子	かまくら環境保全推進会議委員
堀田絵里	鎌倉市在住市民
渡部厚志	公益財団法人 地球環境戦略研究機関 (IGES)プログラムディレクター

2. ファシリテーター

市民による円滑で活発な対話をお手伝いする

全体Fa:

玄道優子 一般社団法人 環境政策対話研究所 客員研究員

グループFa:

東樹 康雅、原田梨世、山内 健、平野理恵、朝尾直太、川本加奈子、山口恵里、川瀬裕子、鈴木秀顕、河合 由紀、鈴木 優子、錦織美夏、齋藤千夏、村上 千里

10. 脱炭素かまくら市民会議の体制(2)

3. 専門家

参加市民に必要な情報を提供し、必要に応じてアドバイスする。

10月19日	亀山康子（東京大学大学院新領域創成科学研究科教授） 浦山友晃（鎌倉市環境政策課係長） 大塚彩美（東京大学未来ビジョン研究センター） 柳下正治（IDEP代表理事）
11月23日	脱炭素アクションの振り返り： 実行委員の専門家を中心に、質疑応答、アドバイスを行う。
第3回会議においては、市民対話の進展に応じて、関連する分野の専門家・実務者等を招聘する。	

4. 事務局スタッフ

一般社団法人 環境政策対話研究所 (IDEP)

代表理事: 柳下

担当理事: 稲田

担当: 山本、奥田

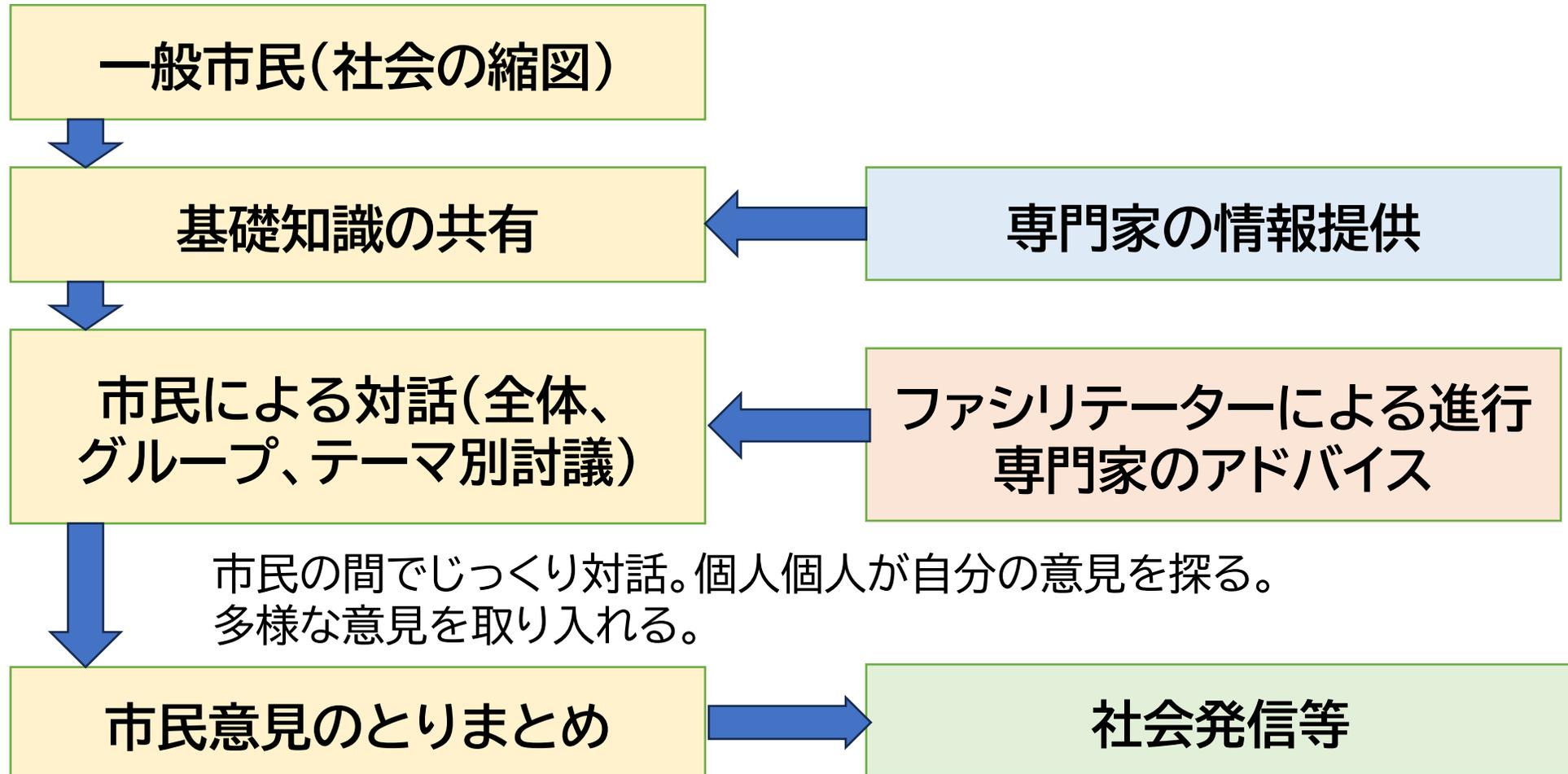
住所: 〒215-0021 川崎市麻生区上麻生
3-12-11 エスケーハイツ103

電話: 044-387-0116

メール: yamamoto.idep@gmail.com (山本)
okuda.idep@gmail.com (奥田)

会議当日の緊急連絡先: 044-387-0116、
070-1240-3481

11. 市民会議の進め方



12. 会議の日程

第1回

10月19日 午後

- オリエンテーション、顔合わせ
- 情報提供: 気候変動、鎌倉市の施策、地域情報
- 脱炭素アクションの説明、取組むアクションを分担

第2回

11月23日 午後

- 脱炭素アクションの振り返り(アクション別G)
- 脱炭素かまくらに向けて深く話し合いたい課題を明らかにする(地区別G)

第3回

12月21日 午前・午後

- 移動、住まい、消費の3テーマに分かれる。
- 専門家・実務家による情報提供・アドバイス
- 第2回で見いだされた課題を中心にグループ討議(テーマ別G)

第4回

1月25日 午後

- 3回目までの議論の結果を集約。
- 議論できなかったテーマを話し合う。
- 脱炭素かまくらのアイデアを広げる
- 会議のふりかえり

脱炭素アクションに10日間取り組み結果を事務局に報告する

討議結果を集約し、市民意見案の土台を第4回で報告

市民有志を交えて市民意見の起草。鎌倉市への手交・社会発信

13. 動画・写真・SNS/自由な発言の保証

◆動画・写真の撮影

市民会議では、会議の様子を広報する目的で、動画及び写真の撮影を行います。写真や動画に映りたくない方は、事前に事務局まで、お声掛け下さい。

◆SNSなどでの発信

会議の簡単な内容やご自身の感想などをX(旧Twitter)やInstagram、Facebookなどで個人的に発信することは歓迎します。ただその際、他の参加者が写った写真や、発言者が特定できる形での意見の紹介等の投稿は行わないよう、お願いいたします。

◆自由な発言の保証

市民会議での参加者の発言は、「誰がいつどんな発言をした」というような、個人が特定化されるような形で公表してはならない、というルールの下に、この会議を実施します。主催者は責任をもってこのルールを傍聴者も含め、全ての関係者に徹底し、参加者の自由な発言を保証します。